

令和 6 年 4 月現在



執務室 25名の消防職員が3交代制で勤務し、執務スペースをフリーアドレス・ワゴンレスで共用する。スペースの効率化だけでなく、場を共有することで交流が生まれ、一体感を感じ、業務の連携強化に繋がる。動線の床を色分けし明確にすることで、安全かつ迅速な出動へ繋げる。

春日井市は、市民の安全・安心を守る消防・防災の拠点として、大規模災害時に効果的な防災機能を果たすとともに、消防・救急活動や災害に強い消防体制の構築に向けて、消防署や各出張所の再整備を計画的に進めており、令和6年4月、春日井市消防署を開署しました。

旧消防署は、老朽化だけでなく、周辺道路の渋滞により緊急車両が出動しにくいなどの課題があったことから、新消防署を北城町に移転し新築整備されました。安全かつ迅速な出動を可能にするための出動準備室や動線整備、あらゆる災害に備えた実践的な訓練施設など大規模災害時の備えを強化しています。

執務室は、25名の署員が3交替制で勤務し、執務スペースをフリーアドレス・ワゴンレスで共用しています。旧消防署では部隊毎で別々の執務室で執務していたため、スペースの効率化だけでなく、場を共有することで消防職員同士の交流が生まれており、一体感を感じ、業務の連携強化に繋がっています。



受付 消防への届出など受付対応を行うカウンタースペース。ローカウンターを基本とし、セキュリティゾーンを明確にするためのスイング扉を配置。



個人ロッカー フリーアドレス、ワゴンレスの運用のため、個人書類・荷物などを保管する個人収納。ダイヤル錠仕様とすることで鍵の紛失などがなく、管理者の負担を軽減。

プロジェクトの詳細

開 署	: 令和6年4月1日
人 口	: 約306,500人
対象人員	: 約80人
延べ床面積	: 3943.32㎡
建物概要	: 鉄筋コンクリート造 地上3階建 (建築基準法上は地上4階建)
委託業務	: なし



オカムラHPでも
ご覧いただけます

また、場所を選択し働けるスペース(打合せ室・個別ブース、ファミレスブースなど)を整備することで、業務の効率化を図り、心理面においてもON⇄OFFの切り替えができるよう配慮しています。

加えて、常に緊張を強いられる消防職員のストレス緩和やモチベーション向上につながるよう、自然を感じる木質系配色の家具やインテリアグリーンを設置するなど、心身ともに健康な状態であるWell-beingの考えを採り入れています。消防職員が緊急出動に備えつつ、快適に柔軟かつ効率よく、業務に一層集中できる執務環境を整備しました。



執務室(一般職席)

一人当たりW1200D600の机上スペース、ワゴンレスの運用にすることで下肢空間に制限がなく、ペアワークや複数名での打合せも可能に。



執務室

執務席より少し離れた場所にサブデスク席を設け、集中作業などペアワークなどに活用。



打合せ室

執務室の状況把握ができるよう、ガラス間仕切仕様の個室。立ち会議などができる上下昇降テーブルやソロワーク・休憩にも利用できる窓側カウンター席を整備。



ファミレスブース

リラックスした姿勢で利用できるソファ席を配置。打合せだけでなく、リフレッシュ・コミュニケーションスペースとしても活用。



個別ブース

集中作業やオンライン研修など、ソロワークに適したブース席。パネルにより程よく視線を遮ることで、業務への集中を促す。



執務スペース

消防職員の緊張緩和とモチベーション向上に繋がるよう、明るい木質の配色やインテリアグリーンを採用。



打合せコーナー

執務スペース外に設けた来客対応スペース。吸音効果のあるR状のスタンドパネルにより、周囲の視線と音を遮る。



会議室

大空間を可動式パネルで仕切り、3部屋に分割できるなどフレキシブルな運用が可能。



食堂(消防職員の食事場所)

多様な組み合わせができる台形テーブルや、屋外を眺めリラックスできる窓側カウンター席などを採用。



書庫

執務室内に書類収納庫を配置せず、書庫で保管。書類が一覧しやすいオープン棚に、書類落下を防ぐ落下防止バーを付帯。



倉庫

被服やイベント備品など、本部管理の物品を保管。物品の重量や大きさに適した棚仕様を採用。



消防救助資機材器具庫

最下段には、重量物や大型の物品を床置きできるように、棚板の無いパレットラックを配置。